

平成 15 年 3 月 31 日

ベンチャーからみた研究機器・設備の調達および開発に関して(株)生体分子計測研究所
岡田 孝夫

1. 研究機器・設備の調達

- ・現在の入札制度は、会社の実績要件（売上、経験など）からランク分類されるシステムになっており、優れた、かつ、高額な機器を開発しているベンチャーは、直接入札に応じられない。マージンを与えて代理店を通さないと入札に参加できない。その分、価格競争で不利になっている。
- ・機器・設備の調達制限を緩め、性能・仕様で優れていれば応札できるシステムにし、会社の信用度の尺度である実績要件（会社の規模、実績など）は、県や国が保証する制度を作って貰いたい。
- ・中小・ベンチャー企業を甘やかすことは良くないが、性能・仕様で優れた機器を開発している中小・ベンチャー企業が参画できる入札制度を構築して頂きたい。

2. 優れた研究機器の開発・製造・販売

- ・バイオ分野などでは、研究・開発に利用する研究機器の多くは欧米製品である。バイオ産業が拡大していくためには、優れた研究機器を開発・製造・販売する研究支援産業が活発化することが不可欠と思われる。
- ・優れた研究機器開発につながるアイデア・研究成果はかなりあるものと思われる。したがって、研究機器という観点から、あるいは、事業という観点から、産・官、産・学が検討する場が有ればと思う。
大学や国研などのマシンショップを充実させ、ハイレベルのテクニシャンが研究者の実験装置作り（ものづくり）を担当する。その中に、中小・ベンチャー企業が参画する、あるいは、そのショップを自由に利用できるシステムとする（その観点から文部科学省のナノテクノロジー 総合支援プロジェクトには期待している）。

以上